

地球の軸、南極でペンギンに会った！

江戸ソバリエ 高橋龍太郎

■ ウシュアエア(アルゼンチン)から、サウスシェトランド諸島や南極半島へ

南極の旅は、一部さまざまな難局場面に遭遇しましたが、初めての南極行も無事に終えました。

旅先での移動と日常生活は全て、客船の中での食事と寝泊まりです。レストランの基本はビュッフェ・スタイルで、夜のコース料理はアルゼンチン料理やメキシコ料理がメインでしたが、メニューの内容は毎回アサード、エンパナーダ(アルゼンチン料理)、モレ、トルティヤ、フリホル(メキシコ料理)など変化工夫が凝らされていました。

私たち江戸ソバリエは海外での蕎麦文化普及につとめていますが、そうであれば外国料理に対しても、敬意をもつべきだとの思いをもって、珍しい南米料理を堪能しました。

乗客 140 名の内訳は日本人は私だけ、あとはアメリカ、カナダ、ヨーロッパ、インド、そして最近では中国人(中国本土、香港、シンガポールなど)が多く訪れる様で、船内の説明は英語と中国語の 2 か国語でした。

一般的な南極観光大型客船の場合は、映画や歌や踊りなどエンタテイメントの催しが多いのですが、今回私が乗船したのは、‘オーシャンダイヤモンド号’(6,282 t)で、探検船のカテゴリーに分類されます。南極上陸のプログラムは、1 日：午前・午後 2 回、約 2 時間程です。

アルゼンチンの南端ウシュアエアから出発して、目的地のサウスシェトランド諸島、南極半島(日程概要参照)に着くと、船は沖合に停泊し、ゾディアックというゴムボート(定員 10 人)に乗り移り、南極大陸や島に上陸しました。

うわっ！ 憧れていた地球の軸、南極についに立ちました。

古いイギリスの南極基地も訪れました。沈没した捕鯨船や漁業基地の廃墟がそのままの状態放置され、南極は自然環境が厳しいだけに、さびた燃料タンクや作業小屋が生態系への汚染、破損による重油流出などによる環境汚染が懸念されます。化学物質が、自然の中でなかなか分解されずに残り続け、大気や水、土を汚す問題が気になりました。南極大陸への持ち込み、持ち出しは厳禁、ペンギンが歩く道や動物には 5m 以内近づかないこと、上陸した際人が歩く道は旗を立てた標識に従う事、途中でスタッフ立ち監視誘導します。

現地は夏(12 月～2 月)で天気が良ければ、日中の気温は 2～5℃ほど。厚着をしているので、雪の上を歩くと暑く感じました。大陸でのトイレは厳禁なので、防衛策として、私は介護用オムツを持参着用しました。上陸した後、ゴムボートで氷山の間や海上を走り、ペンギン(多い場所では 100 羽)やアザラシ(2～3 頭)、クジラ(3 頭)、海鳥などの野生動物・海洋生物を心ゆくまで観察しました。

船では、上陸以外の時間には、気象・動物生態系・地質などに関する南極に関する講座が毎日数回開かれます(自由参加)。図書館もありしっかり南極学を学ぶことができます。

南極は「かけがえのない地球」の財産だと思いますが、地球温暖化、大気や海洋汚染やオゾン層の破壊、希少動植物絶滅など生態系の破壊の問題が気になります。

南極は地球誕生以来の歴史を、巨大な厚い氷のタイムカプセルに留めています。

南極という地球の軸地に来て、環境問題の大切さを感じた旅でした。



ペンギンの集団とアザラシ



ゼンツペンギン



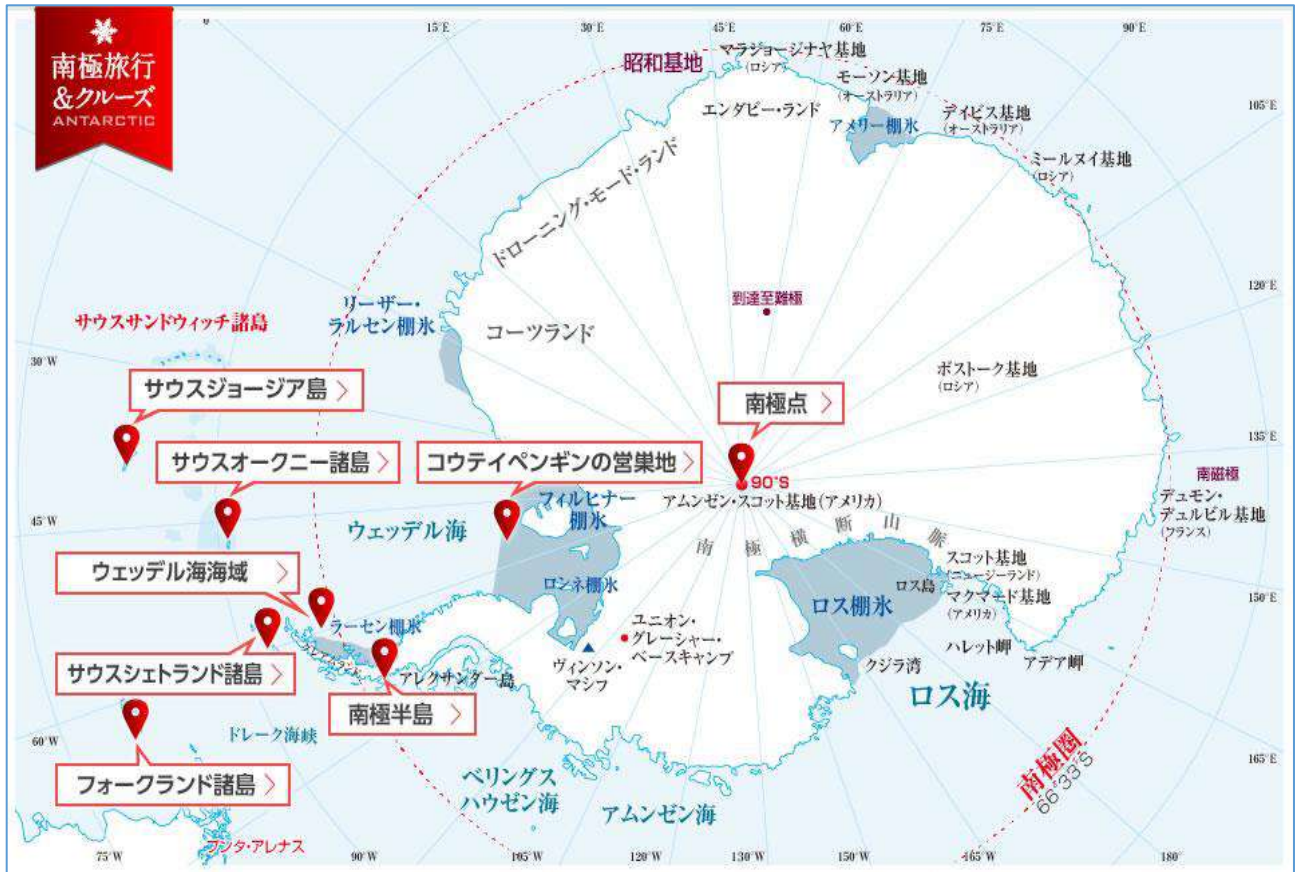
ヒゲペンギン



海鳥



くじら



■南極ってどんなところ？

「雪と氷、冰山と厳しくも美しい大自然の神秘につつまれ、ペンギン・アザラシ・クジラ・海鳥などの野生生物が逞しく生きています」

南極大陸は、英語で`The antarctic`。周辺の棚氷、群島、海域を含み、60度線からの南全域を含みます(南極条約が適用される地域) 大陸の面積は1,400万㎡で、世界で5番目の大きさです。ほぼ全域が厚い氷(氷床)に覆われていて、大陸の平均標高は2,300mと高い大陸です

*冰山とは、氷床、棚氷、氷河から分離した氷片で、氷塊と呼ばれています
冰山は、体積の6分の1~4分の1しか海面に出ていません



■クルーズ日程概要

日 程	場 所	主 な 内 容
クルーズ 1日目	ウシュアイア 出発	各自指定場所に集合、乗船、オリエンテーション救命具訓練など
2	ドレーク海峡 を通過する	南極半島の北約 150km に連なるサウスシェトランド諸島の間 に広がる幅約 800km の海域で、世界で最も荒れる海域です。絶叫 する 60 度の俗称でよばれる
3		
4～9	サウスシェトラ ンド諸島&南極 半島	<p>サウスシェトランド諸島へと向かいます。キングジョージ島や リビングストン島 では、無数のペンギンやアザラシたちに遭遇し ました。</p> <p>活火山島のデセプション島では、かつての捕鯨基地を見学。 さらに南極半島へと南下を続けます。ポーレット島、パラダイス 湾、クーバービル島へ。トウゾクカモメ、サヤハシチドリ、アザ ラシなど、海洋哺乳動物、ウェッデルアザラシ、カニクイアザラ シ、ヒョウアザラシ、ザトウクジラ、ミンククジラに遭遇します。 天候と氷の条件が良ければ、ポーレット島へ上陸です。また、パ ラダイス湾へも立ち寄ります。元英国の科学基地であった ポー ト・ロックロイ では、ペンギンや鵜の繁殖している場所が見られ ます。現在は博物館となっています。聳え立つ岩肌やスペクタル な氷河の間を抜ける スーメア や ルーメール海峡 のような美し い光景に心を奪われます。</p> <p>この海峡は、この南極半 島クルーズのハイライトのひとつになっ ています。更に船はルーメール海峡の南にある ピーターマン島 へ。ここは、ブルーアイ鵜やトウゾクカモメ、アデリーやジェン ツーペンギンのコロニーです。</p>
10～12	ドレーク 海峡	ウシュアイア着 (南極クルーズ終了) 各自で空港へ

日本から空路、中東経由でブラジル、アルゼンチン・ブエノスアイレスへ
そして国内線に乗り換えてアルゼンチンの南端ウシュアイアへ。

以上